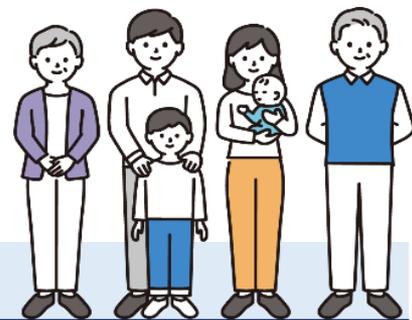


第6回都市と地域コミュニティの 持続可能性に関する懇談会

前回までの意見の総括

これまでの開催実績

| 回 | 分野 (テーマ) | 有識者 |
|----------------|-----------------------------|------------------------------------|
| 第1回 (7/2) | 本市の将来見込み・ 地域コミュニティに関する現状 | 岐阜大学 客員教授・加藤 義人 |
| 第2回 (7/18) | 環境・衛生<ごみ> (ごみ処理の現況と課題) | 石川県立大学附属 生物資源工学研究所 講師・楠部 孝誠 |
| 第3回 (7/31) | 環境・衛生<ごみ> (ごみ処理に係る地域課題) | 国立環境研究所 客員研究員・鈴木 薫 |
| 第4回 (10/3) | 安全・安心<防災> (共助の重要性) | 岐阜大学 環境社会共生体研究センター 准教授・小山 真紀 |
| 第5回 (11/25) | 地域との協働 (協働のまちづくり) | 岐阜大学 社会システム経営学環 教授・高木 朗義 |



自治会

- 地域に転入してくる人への**自治会加入の案内**について検討が必要である。
- 高齢者に頼り過ぎず、**若者の登用**や**後継者育成**が必要である。
- 地域コミュニティに関わることの**メリット**である温かさや心強さを**共有しきれていない**という課題がある。

若い世代・人材育成

- 東京や名古屋などの**都市部への流出**は**魅力ある仕事**を求めているのではないか。
- **企業の付加価値創出力**を高めるとともに、地域企業の**働きがい**や**地域貢献**を分かりやすく示すことが、**若い世代の流出抑制**につながると感じた。

子育て

- **子育て世帯**のコミュニティは広がってきているが、未だ**集いの場**は少ない。
特に岐阜駅南側は**さらなる整備**が必要ではないか。
- **転入者や情報弱者**と言われる人たちに、**NPO同士の横のつながり**を強化することで、**岐阜の魅力**を伝えられる**風土**を作りたい。

産業振興

- Uターンも含め、**若い世代**を**惹きつける都市**になるためには**産業振興**が重要である。
- **若い世代の流出を止めるための産業振興**に取り組んでもらいたい。
- **若い世代**が意欲を持って働ける地域にするため**魅力ある働き方**（オンライン勤務等）や**職種**（情報通信産業等）に**特化して取り組む**ことが必要である。
- **スタートアップ支援**は、**岐阜市を拠点**としてもらう**働きかけ**が必要である。
- **ミッションドリブンの若い世代**に、**企業が自らの魅力を伝える**ことが重要である。



啓発活動

- 次世代に環境問題を**先送り**することは**避けるべき**である。
共通意識を持ってもらうために、**若い世代への情報発信**が必要である。
- ごみ問題を子育て世代にも**自分事**として捉えてもらうことが大事である。
出前講座などの市の取組をさらに推進してほしい。
- **食品ロス**の問題がごみ処理に与える影響など、**小中学生**にも問題意識を持ってもらうための**教育**が必要である。
- 行動変容には**対象者に適した啓発活動**が必要で、**体験型**のアプローチが有効である。

ごみステーション

- **若い世代**は、昼間に仕事のため、**管理ができない**。
そのため、**カラスが散らかしたまま放置**されているという問題がある。
- 他の中核市と比較して**多く設置**（約27,000か所）されているが、
自治会が管理することで支えられている。

ごみの減量・資源化

- 市民意識の向上のため、**市から指導**をしてもらいたい。
- **企業団体**としても**食品ロスの問題**に地道に取り組んでいかなければならない。
- 資源ごみ回収でポイントを付与するなど、**分かりやすいメリット**で意識が向上する。
- 何の種類のごみを減らすか、なぜ減らすか、ということを確認にするべきである。
目的意識と手段をセットにして取り組むことが重要である。
- **紙おむつのリサイクル**ができるが良い。
- 他都市より**プラスチックごみ**の割合が多いため、市に**減量**に取り組んでももらいたい。
- 日常生活で、**ごみに変わるタイミング**を**意識**することが大切である。
- **ごみ処理場**の建設にあたっては、**地域住民に寄り添う**ことが大切である。

ごみの処理経費・有料化

- **ごみ処理経費**の**増加**を課題として考えていかなければならない。
- 金沢市の事例ではごみ袋有料化が減量に効果的であった。
ごみ処理には多くの税金が必要であることから、
有料化の検討は、**市民の理解を得ながら**進めていくと良い。



自治会

- 地域のごみ処理問題に対して、**他自治体の事例を研究する必要**がある。
- ごみ処理の**トラブル**を未然に防ぐため、**自治会内で対応策**を設けるべき。
- **若い世代の参画**を促し、**時代に合わせた運営**に変化する必要がある。
- **ごみステーション管理**の負担が**加入を躊躇**する要因となり得る。
- 自治会の**魅力を高める**ことが、**加入率を高める**ために重要である。
- 一番のメリットは、**助け合うきっかけ**となることである。
- **ごみ**収集やステーション管理は、**地域コミュニティを維持**するための**最後の機会**となるものである。

若い世代

- ごみ処理の説明会等では、若い世代の**参加を促進**するような**工夫**が必要である。
- **市公式LINE**は非常に好評で、市の動きが分かりやすく便利である。
若い世代への**アプローチ手段**として活用するべきである。

ごみステーション

- **ルールが守られている地域**の取組を**参考**にすることが重要である。
- 飲食店の生ごみが多い**中心市街地**において、**カラス**によるごみの散乱が発生すると、まち全体のイメージが悪化しかねない。
- **蓋付収集箱**の設置は、有効な**カラス対策**となるが、**スペースの課題**がある。
- **カラス対策ネット**の購入費用は、**個人負担**か**自治会負担**か地域で異なる。
- 岐阜市は約27,000か所あり、かなり多い。
収集効率やコスト、人員確保の問題が生じるため、**設置基準を検討する必要**がある。

ごみの減量・有料化

- **市民や事業者**に処理経費の増加や施設改修などの**課題を知ってもらい**、**有料化の検討**を進めるべきである。
- 有料化の検討は、**市民の声**を聞きながら、課題を洗い出すことが必要である。
- **ごみ減量の更なる取組**も必要ではないか。
- 有料化による**財源の使途**については、しっかりと**検討すべき**である。



地域の共助

- **日頃**の地域住民の**コミュニケーション不足**が課題である。
- 地域防災力の強化のため、**若い人の自主防災組織への加入促進**が必要である。
- **平常時**から地域での**顔が見える付き合い**や、**避難訓練**などの活動が重要である。
- **日中**は大人が不在になるため、**中学生が地域の核**になる。
- 地域での関わりを深め、**自分の家族を知ってもらう**ことも大切である。
- 手本となる地域の**取組を共有**し、市全体で防災力を高めるべきである。
- 災害時の**自治会の未加入者への対応**が課題となる。

自治会への加入促進と地域のつながり強化が重要である。

避難所

- 以前より避難する人が増加しており、**防災に関する広報が進んできた**と感じる。
- **女性や子ども**が**避難所で生活しづらい**という課題に対応していく必要がある。

避難訓練

- 避難・防災訓練には、**リアリティ不足**や**自分事化できない**という課題がある。
訓練自体が目的化していたり、事前周知されていたりするため、**実施方法を工夫する必要**がある。
- **介助が必要な方への支援**について、日ごろの**研修**が重要である。
- **避難所体験**を行うと、**気づき**を得たり、**地域との関係性構築**につながる。
- **小学生**と地域住民が、**合同**で**避難訓練**や**避難生活**を体験することで、
防災意識を向上させている自治体がある。

防災意識

- **災害経験のない人**が多く、**若年層の防災意識の低下**を懸念。
- **意識の低い人**は防災イベントや研修に参加しない傾向がある。
誰もが**参加したくなるきっかけづくり**が重要である。
- **子育て中の女性**を対象としたアンケートでは、避難のタイミングが分からないという不安の声や、**行政や地域からの支援を頼る声**が多く見られた。
- 避難所生活を**体験**することで、自助、共助の**意識**も**高まっていく**のではないかと。
- **関心が低い人**には**他イベントとの組み合わせ**や**楽しく学ぶ仕掛け**が有効である。



地域の担い手

- 仕事で**時間に余裕のない**人が多いため、**地域活動に参加できる人材**の確保が課題である。
- 核となるまちづくり協議会の人材が短期的に変わっていく中で、**中心となる人材を確保するための仕組み**を考える必要がある。
- **若い世代**は受け身の傾向があり、**地域活動の核**になったときに、うまく対応できるか**懸念**している。
- **インフルエンサー**を巻き込み、まちづくりに関わる人を増やすことが重要である。
- 自身が**まちづくりの主体**であることを意識する必要がある。
- **ITを活用**して自治会活動に**役立てたい**という**若い世代**がいる。
そのような若者の参画を**大切**にしていくべきである。
- まちづくりの**ハードルを下げる**ことで、多くの人に関心を持てるようになる。
- 後継者不足に対処するために、**退職した人材**を活用することが考えられる。
- **地域企業の参画**が望ましい。DXなど効率化に関する面での関与が有益である。

地域コミュニティの組織の在り方

- **小規模多機能自治**の実現には、会計処理や監査などの**負担が懸念**される。
- 地域をまとめるためには**自治会**や**まちづくり協議会**の活動が重要である。
- まちづくり協議会の**多様な活動**には財源が必要であり、**事業費の確保**が課題である。
- **子どもの頃からまちづくりに関わる機会**を持つことが重要である。
地域の仕組みとして**小規模多機能自治を推進すべき**ではないかと考える。
- **中間支援組織**の役割が地域とNPO等団体の**マッチング**において重要であり、
地域コミュニティの**強化**につながると考える。

自治会加入、地域活動参画に関する啓発

- 自治会の魅力を**PRする方法**について**課題**を感じている。
- 自治会加入の**メリット**は、**地域の情報**を得たり、地域の人々との**交流**ができる貴重な機会であり、地域との**つながりを実感**できることだと考える。
- 若者の**無関心な層**に対して、**どのように関心を持ってもらう**かが課題である。
- **子どもの頃から**地域社会とつながりを持つことの重要性や、
まちづくりの主体が自分たちであることを**自然に伝えること**が必要である。
- **まちづくりに自然と関わる機会**をより広げるために、行政が予算を充てると良い。

今後の方向性

構成員の皆様からの意見を

懇談会の目的 「持続可能な都市と地域コミュニティの形成を目指す」 ための各部局の計画策定や施策立案の参考とする

環境・衛生

■ごみ処理問題への対応

- 意見
- ・先送り避けるべき
 - ・減量対策
 - ・経費増への対処
 - ・共助により成立するごみ処理体制の維持への懸念
 - ・ごみステーションに係るトラブルを未然に防ぐべき

- 内容
- ✓ごみ処理**有料化**を実施する
 - ✓ごみ処理に係る**地域活動の支援**を検討する
 - ✓**ごみステーションに係るルール**を整理する

安全・安心

■防災教育の推進

- 意見
- ・若年層の防災意識の低下を懸念
 - ・昼間は中学生が地域の核

- 内容
- ✓**教育委員会と連携し、子ども**のころからの**防災教育推進**を検討する

■関心の低い層へのアプローチ

- 意見
- ・意識の低い人は防災イベントに参加しない
 - ・他イベントへの出展、楽しく学ぶ仕掛けが有効

- 内容
- ✓**各種イベントに出展し、体験型の防災企画**の実施を検討する

地域との協働

■自治会加入の促進

- 意見
- ・自治会の魅力を高めることとそのPR方法が課題
 - ・自治会加入の案内について検討が必要

- 内容
- ✓自治会所属で得られる**優遇策の導入**を検討する
 - ✓デジタル媒体を活用する等し、自治会への理解を深めるとともに**自治会加入を呼びかける**

■持続可能な地域コミュニティの促進

- 意見
- ・人材確保が課題
 - ・地域活動の維持、組織強化

- 内容
- ✓**地域支援職員の体制強化**を検討する